

名張市における観光の現状と課題

大阪商業大学 総合経営学部 経営学科 2 回生 宮城ゼミナール

2017 年 1 月 18 日 (水)

中村昌平 住谷健汰 児島丈

研究目的

大阪商業大学宮城ゼミナールでは市の方々や観光関連企業、地域との連携を図り、その上で実際に現地に行きアンケート調査を行い、観光の現状や課題を見つけ知ることである。そこから得た調査結果を学生ならではの視点から課題を推測しどのようにして問題を減らすことができるかどうかを地域活性化につなげていくことができるかなどを試みている。

研究対象 (三重県名張市)

名張市とは

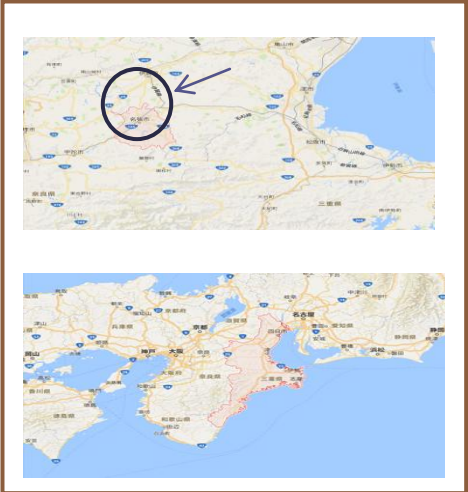
名張市は三重県西部、伊賀地方に位置する市である。近鉄大阪線の沿線、大阪都市圏へ約 60 分の位置にある。

理由: 多くの観光名所が存在していて、まだまだ発展できそうであるから

〈面積〉 129.8 km²

〈人口〉 7.819 万人 (2015 年 8 月)

〈名所〉 赤目四十八滝、赤目温泉、夏目廃寺など



研究方法とアンケート実施場所

赤目四十八滝

〒518-0469 三重県名張市赤目町長坂 861-1

交通のアクセスも良く自然も大変豊かで体験ツアーなどもあり特産品も多く大人から子供までが楽しめる場所になっている印象でした。

研究方法

現地調査: 研究の対象である名張市に行き歩いて見て回り市の職員の方から実際に話を聞いた。その内容は名張の観光資源、現状の二つに分けて話を聞いた。

アンケート調査: 現地に行き観光客に対しアンケートを取りその傾向を調べ以下のサンプルが得られた。

調査内容

6 月 15 日から 11 月 19 日までの間に全 6 回アンケート調査を行い 259 枚の有効サンプルを得ることができた。主な調査内容として 12 の項目からなり満足度調査を軸に「景観や雰囲気」、「宿泊施設」、「観光・文化施設」、「飲食施設」、「物販施設」の満足度合をはかり、また情報源なども質問項目に含めた。

実施日	全サンプル数	有効サンプル数
6 月 15 日(水)	34 枚	30 枚
6 月 18 日(土)	47 枚	35 枚
7 月 11 日(月)	39 枚	31 枚
7 月 12 日(火)	20 枚	16 枚
8 月 14 日(日)	155 枚	128 枚
11 月 19 日(土)	19 枚	19 枚
注 1: 実施日はすべて 2016 年		
注 2: 実施場所はすべて赤目四十八滝渓谷内(壘蛇滝広場付近)		

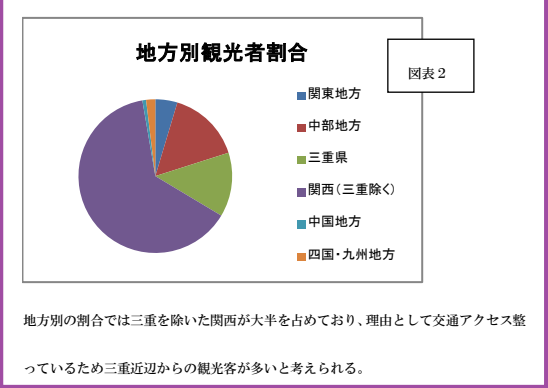
調査結果: アンケート調査によって 10 代の割合が非常に少なく、30 代、40 代の割合が高いという結果が出た。この結果を踏まえると 10 代の観光客にとっては訪れにくい場所と考えた。

学外での活動

宮城ゼミナールでは学外でも活動を精力的に行っている。関西観光教育コンソーシアム学生活動成果発表会に参加し、自分たちの研究結果を発表したりして情報発信を意識的に行っている



←学生活動成果発表の様子



名張のインターン行ってみて

実際に宮城ゼミナール生が名張市赤目四十八滝の忍者体験ツアーにインターンシップとしていって仕事が大変だったそうです。そこでの制服は忍者の格好をして従業員とともに仕事をするそうです。季節が真夏だったため忍者の格好は大変だったのですがお客さんと一緒に忍者体験することは楽しかったみたいです。

←忍者体験の手裏剣投げの練習場

まとめ: 宮城ゼミナールでは、アンケートを行い現状と課題を知り見つけることである。アンケートに行った結果認知度は高いとは言えない、SNS を通じ訪れた観光客が少なかったため人気のある観光スポットに比べ、SNS での発信力が低いと感じた。今後の課題: 名張は景観もよく雰囲気も整っているのだが観光客の人数が増えないか考えた結果交通の不便さにあるのではないかとと思われる。例でいうと電車で名張まで行き赤目四十八滝に行く際バスを利用すると思われるのだが 1 時間に一本であり本数は多くはない。このことから考えられるにバスの本数を増やすなど交通の便を増やすことができたなら関西以外の場所からも訪れるのではないかとと思われる

再考: 名張には観光客を呼び込めるほどの観光資源はあるのだが SNS での発信力が低い、今後高めることができれば認知度はいまよりも高くなっていくはずだ。また名張市は二次交通がよくないためそれが観光の妨げになっていると感じたため二次交通の改善も必要だと思う。実際、現地に行く前に名張市には観光資源があるため認知度が高いと思っていたがアンケート調査を行っていくうえで資源があるのに対し認知度が低いというギャップが生じてしまった。